



# 園だより

令和3年4月30日  
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育5月のねらい」

持戒和合



「子どものお手本に」

園長 佐藤和順

新緑のすがすがしさを感じる好季節です。晴れ渡った空に、園の鯉のぼりも心地よさそうに泳いでいます。新年度が始まり、早いもので1ヶ月が経とうとしています。新しい環境に戸惑い、当初は家族から離れる不安から泣いている園児の姿も見受けられましたが、今ではにぎやかな子どもの声と笑顔が園庭にあふれています。新しい先生やクラスにも慣れ、関わりも深まってきました。

さて今月の保育目標は「持戒和合(じかいわごう)決まりを守り集団生活をしよう」です。「持戒」とは、決まりを守る、我慢をするということです。「和合」とは、和やかに力を合わせ、協力するということです。約束を守るとは社会生活の第一歩でありそれをもとにして集団の秩序が保たれます。社会生活の第一歩である園生活を楽しいものにするために必要なことを考えてみようということです。附属幼稚園が大切にしている「明るく、正しく、仲良く」とも深い関わりがあります。

家庭とは異なり、園は集団生活の「場」です。そのため、生活面・遊びの面等で様々な決まりがあります。なぜ決まりを守らなければならないのか。決まりを守らないと「家族に叱られるから」とか「先生に注意されるから」と考えがちになります。確かに、幼児期初期はこのような考え方で良いでしょう。自らで判断が難しいので、大人の基準に拠って、判断する。これを他律的道德段階といいます。しかし、幼児期は他律的段階から自律的道德段階へと移行する時期です。なぜ、決まりを守らなければならないのかを子ども自身が考え、判断することが求められるのです。例えば、滑り台を使用するためには並ばなければならないという決まりは、割り込むと危険であったり、ケンカになってしまう。並んで順番を守る方が、安全で快適だからということ子ども自身が理解して、決まりを守るようになる必要があるということです。大人の人に怒られるからという理由では、家族や先生が見ていないところでは守らなくてもよくなってしまいます。移行段階ですから、何度も失敗を繰り返すことでしょう。そのような時こそ、園では先生と一緒に相手の気持ちを考えたり、提案をするようにしたいと考えています。

言葉で決まりを伝える事は簡単ですが、経験が無ければ理解することは難しく、日々の遊びの中で繰り返し大切さを経験することでいろいろな決まりを学んでほしいと願っています。家庭では、保護者が「決まりを守りなさい」と言うだけでなく、社会の決まりを守る姿勢、他人に迷惑をかけないように節度ある態度を示していくことでお手本となります。家庭と園で力を合わせ、子どもにも「持戒和合」の心を育てて行きたいと思えます。

